

〔引用文献〕

- [1] 青山道夫編『アフリカの土地慣習法の構造』アジア経済研究シリーズ48, アジア経済研究所, 1963年。
- [2] 赤阪賢「交易活動と市場組織——西アフリカの場合——」(〔60〕所収, 277~313ページ)。
- [3] 赤羽裕「ブラック・アフリカにおける『農業・土地制度改革』の諸問題」(『後進国経済発展の史的研究——昭和44年度中間報告くその1——』アジア経済研究所所内資料〈調査研究部44—28〉1970年, 57~81ページ)。
- [4] 赤羽裕『低開発経済分析序説』岩波書店, 1971年。
- [5] アジア・アフリカ言語文化研究所編『アフリカ部族社会の特質をめぐって』東京外国語大学, 1971年。
- [6] 池野旬「タンザニア, ハヤ族の土地保有制度——ニャルバンジャ制度とスクウォッター制度——」(『アジア経済』第20巻第12号, 1979年12月, 77~98ページ)。
- [7] 池野旬「タンザニア, スクマランドにおける棉生産——その拡大・停滞過程と政策的対応——」(『アジア経済』第22巻第11・12号, 1981年12月, 57~80ページ)。
- [8] 池野旬「ケニアにおける農業開発と貧困問題——1983年世銀報告の検討——」(『アジア経済』第27巻第5号, 1986年5月, 61~76ページ)。
- [9] 池野旬「ケニアの乾燥地・半乾燥地(ASAL)開発計画」(〔83〕所収, 179~211ページ)。
- [10] 池野旬「ケニアの農村階層分化に関する一考察——移動労働の送金をめぐって——」(『アジア経済』第29巻第7・8号, 1988年8月, 55~76ページ)。
- [11] 池野旬『ウカンバニ——東部ケニアの小農経営——』研究双書380, アジア経済研究所, 1989年。
- [12] 泉靖一編『ニグロ・アフリカの伝統的社会構造(1)』アジア経済研究シリーズ23, アジア経済研究所, 1962年。
- [13] 犬飼一郎『『アジア経済』特集 東アフリカの農村開発——ケニアとタンザニアの比較——』(『アジア経済』第22巻第11・12号, 1981年12月)。
- [14] 犬飼一郎「農業開発と生産技術の変化——ケニアとタンザニアとの比較——」(『アジア経済』第22巻第11・12号, 1981年12月, 5~37ページ)。
- [15] 江波戸昭「ケニア山麓メル族地域の農業と土地保有制度の変容」(〔82〕所

- 収, 125~162ページ)。
- [16] 江波戸昭「ケニアにおける小農の農家経済と食糧需給」([60]所収, 11~49ページ)。
- [17] 小倉充夫「ザンビアの経済危機と政策の諸問題」([83]所収, 65~91ページ)。
- [18] 小倉充夫「社会主義エチオピアにおける農業政策と農村社会の再編成」([43]所収, 35~65ページ)。
- [19] 香月敏孝「タンザニアにおける開発援助と農村社会の変容」([43]所収, 103~124ページ)。
- [20] 勝俣誠「セネガル——構造調整策と農業——」(『アフリカレポート』第8号, 1989年3月, 16~20ページ)。
- [21] 川田順造編『黒人アフリカの歴史世界』山川出版社, 1987年。
- [22] 小島さくら「ケニア経済の資本主義的發展をめぐる最近の論争」(『アジア経済』第25巻第7号, 1984年7月, 59~69ページ)。
- [23] 児玉谷史朗「ケニアの小農場部門における農民の階層分化」(『アジア経済』第22巻第11・12号, 1981年12月, 38~56ページ)。
- [24] 児玉谷史朗「ケニアにおける小農の兼業と階層分化」(『アジア経済』第25巻第7号, 1984年7月, 40~58ページ)。
- [25] 児玉谷史朗「ザンビアにおける国家と小農」([43]所収, 125~157ページ)。
- [26] 後藤晃「西ナイジェリアにおける商品流通経済の進展——市場活動の展開と農業社会——」([82]所収, 43~83ページ)。
- [27] 後藤晃「西ナイジェリアにおけるココア栽培の発展と食糧作物栽培——商品作物栽培農民の行動パターン——」([60]所収, 209~234ページ)。
- [28] 宍戸寛編『アフリカのナショナリズムの発展』調査研究報告双書24, アジア経済研究所, 1962年。
- [29] 宍戸寛編『アフリカのナショナリズムの発展(II)』調査研究報告双書41, アジア経済研究所, 1963年。
- [30] 島田周平「ナイジェリアにおける耕作形態と土地保有——東部ナイジェリアを中心に——」([82]所収, 85~124ページ)。
- [31] 島田周平「南部ナイジェリアの食糧生産増大過程に関する一考察」(『アジア経済』第17巻第12号, 1976年12月, 32~52ページ)。
- [32] 島田周平「西部ナイジェリアにおける食糧生産」([60]所収, 165~207ページ)。
- [33] 島田周平「ナイジェリアの地域問題の史的起源」(I)(II)(『アジア経済』第22巻第5号, 1981年5月, 2~24ページ; 第22巻第6号, 1981年6月, 66~86ページ)。

- [34] 武内進一「キンシャサ周辺農村の土地問題——植民地期労働移動要因の再検討——」（『アジア経済』第29巻第7・8号, 1988年8月, 32~54ページ）。
- [35] 武内進一「現代ザイールの土地紛争と土地法——1973年制定の土地法に関連して——」（[43]所収, 227~251ページ）。
- [36] 富永智津子「19世紀東アフリカにおける長距離交易の展開と首長制社会の変容——パンガニ・ルートの事例（タンザニア）——」（『アジア経済』第22巻第5号, 1981年5月, 25~67ページ）。
- [37] 中村弘光「ナイジェリア」（[28]所収, 27~92ページ）。
- [38] 西野照太郎『鎖を断つアフリカ』岩波書店, 1954年。
- [39] 林晃史「キクユの土地保有」（『アジア経済』第11巻第2号, 1970年2月, 30~40ページ）。
- [40] 林晃史「ケニアの農村開発と労働力吸収能力——四つの農業開発計画の比較——」（『アジア経済』第22巻第11号, 1981年11月, 81~100ページ）。
- [41] 林晃史「南アフリカの工業化と人種差別をめぐる論争」（『アジア経済』第23巻第9号, 1982年9月, 85~100ページ）。
- [42] 林晃史「モザンビーク農村社会の再編成」（[43]所収, 3~33ページ）。
- [43] 林晃史編『アフリカ農村社会の再編成』研究双書385, アジア経済研究所, 1989年。
- [44] 原口武彦『部族——その意味とコート・ジボワールの現実——』研究参考資料243, アジア経済研究所, 1975年。
- [45] 原口武彦「コート・ジボワールの高度経済成長と食糧生産」（[60]所収, 111~164ページ）。
- [46] 原口武彦「コート・ジボワール経済の奇跡的成長と危機」（『アジア経済』第27巻第5号, 1986年5月, 25~44ページ）。
- [47] 原口武彦「コートジボワール北部の農村開発」（[83]所収, 213~240ページ）。
- [48] 半澤和夫「東アフリカにおける牛耕の導入過程——農機具『中間技術』の一事例——」（『アジア経済』第25巻第9号, 1984年9月, 2~20ページ）。
- [49] 半澤和夫「ケニア農村の再編成と農業開発政策」（[43]所収, 159~191ページ）。
- [50] 日野舜也「アフリカ都市研究の視角」（アフリカ研究会編『アフリカ諸国における経済自立(続)』研究参考資料170, アジア経済研究所, 1971年, 111~161ページ）。
- [51] 深沢八郎『東アフリカの貿易と流通組織II』研究参考資料122, アジア経済研究所, 1967年。
- [52] 星昭『中央アフリカの社会・経済構造』研究参考資料123, アジア経済研究

所, 1967年。

- [53] 星昭「ローデシアの『原住民指定地』と『原住民購入地』」(『アジア経済』第10巻第2号, 1969年2月, 82~97ページ)。
- [54] 星昭「ザンビアにおける『部族主義』と土地保有」(『アジア経済』第11巻第2号, 1970年2月, 41~57ページ)。
- [55] 星昭編『アフリカ諸国における経済自立』アジア経済調査研究双書173, アジア経済研究所, 1969年。
- [56] 細見真也「ガーナのココア・ボードと小農輸出経済」([55]所収, 125~156ページ)。
- [57] 細見真也「ガーナにおける食糧需給の動向と伝統農業の変容過程」(『アジア経済』第17巻第4号, 1976年4月, 34~55ページ)。
- [58] 細見真也「ガーナにおける食糧問題と局地的市場圏——1950年代の南部森林地帯の事例研究——」([60]所収, 235~275ページ)。
- [59] 細見真也「ガーナの農業政策と農民——対立する『時間認識』——」([83]所収, 119~146ページ)。
- [60] 細見真也編『アフリカの食糧問題と農民』研究参考資料262, アジア経済研究所, 1978年。
- [61] 宮治一雄「アルジェリアにおける土地政策」(星昭編『アフリカ植民地化と土地労働問題』研究参考資料217, アジア経済研究所, 1973年, 105~131ページ)。
- [62] 村武精一「ナイジェリア・ヌベ王国における村落と土地保有」([83]所収, 13~41ページ)。
- [63] 室井義雄「ナイジェリアにおける農業開発政策——北部の大規模灌漑計画とハウサ農民:『カノ・リバー計画』の事例——」([83]所収, 147~178ページ)。
- [64] 室井義雄「ナイジェリアにおける農村社会と変容——石油ブーム下の総合農村開発計画とハウサ社会——」([43]所収, 193~225ページ)。
- [65] 望月克哉「ナイジェリアの農業開発——アナムブラ州における大規模灌漑稲作の事例——」(『アジア経済』第29巻第7・8号, 1988年8月, 129~145ページ)。
- [66] 矢内原勝「アフリカ経済の輸出部門の発展」(『アジア経済』第8巻第2号, 1967年2月, 2~15ページ)。
- [67] 山田秀雄「南ローデシア」([28]所収, 187~266ページ)。
- [68] 山田秀雄「ガーナにおける伝統的社会経済構造の変容」(山田秀雄編『植民地社会の変容と国際関係』アジア経済調査研究双書170, アジア経済研究所, 1969年, 3~79ページ)。
- [69] 吉田昌夫「東アフリカにおけるイギリス企業の成立と活動」(『アジア経済』

- 第4巻第12号, 1963年12月, 2~27ページ)。
- [70] 吉田昌夫「第2次世界大戦と東アフリカ農産物販売機構の変化——一括買付け方式の及ぼした影響を中心として——」(『アジア経済』第7巻第12号, 1966年12月, 20~40ページ)。
- [71] 吉田昌夫「東アフリカの国内向け農産品マーケティング・ボードの性格」([55]所収, 157~206ページ)。
- [72] 吉田昌夫「東アフリカにおける農産物販売機構のアフリカ人化——棉花およびコーヒー販売協同組合の形成過程——」(『アジア経済』第10巻第2号, 1969年2月, 61~81ページ)。
- [73] 吉田昌夫「二重経済論と東アフリカの農業構造——農産物流通機構の形成過程より見た一試論——」(アフリカ研究会編『アフリカ諸国における経済自立(続)』研究参考資料170, アジア経済研究所, 1971年, 43~85ページ)。
- [74] 吉田昌夫「タンザニアにおける農業調査」(『アジア経済』第12巻第3号, 1971年3月, 108~113ページ)。
- [75] 吉田昌夫「タンザニア土地政策史」(星昭編『アフリカ植民地化と土地労働問題』研究参考資料217, アジア経済研究所, 1973年, 71~104ページ)。
- [76] 吉田昌夫「タンザニア南部のニャクチャー族における村落経済と土地保有慣習の変容」([82]所収, 163~217ページ)。
- [77] 吉田昌夫「植民地経済における商業活動の担い手——東アフリカ農産物流通構造形成の主体——」(『アジア経済』第17巻第1・2号, 1976年2月, 138~152ページ)。
- [78] 吉田昌夫「タンザニアの農家経済調査よりみた食糧生産」([60]所収, 51~109ページ)。
- [79] Yoshida, Masao, *Agricultural Marketing Intervention in East Africa: A Study in the Colonial Origins of Marketing Policies, 1900-1965*, アジア経済研究所, 1984年。
- [80] 吉田昌夫「タンザニアの経済危機と開発政策」([83]所収, 3~38ページ)。
- [81] 吉田昌夫「タンザニアの農村再編成」([43]所収, 67~101ページ)。
- [82] 吉田昌夫編『アフリカの農業と土地保有』研究参考資料242, アジア経済研究所, 1975年。
- [83] 吉田昌夫編『80年代アフリカ諸国の経済危機と開発政策』研究双書360, アジア経済研究所, 1987年。

